

# 地域が主体の まちづくり

【著】 山路 清貴  
響 てらお



社会福祉法人  
横浜市社会福祉協議会

YOKOHAMA CITY COUNCIL OF SOCIAL WELFARE

まえがき

第1章 「てらお福まち」とは何か

1節 福まち前夜

1 寺尾地区はよくある普通のまち 3

2 寺尾地域ケアプラザ所長の思い 3

3 メガネット（寺尾地域支えあい連絡会）の活動 5

4 まちづくりへの期待の高まり 6

5 福祉のまちづくり重点推進地区の指定に向けて 7

2節 活動のテーマ

1 暮らしに福を呼べば何でも福祉 9

2 「てらお福まち」と略称で呼ぶ 9

3 魅力を伸ばしながら課題点を解消する 10

4 てらおらしさを大切に 12

3節 対象地区の設定

1 身近なまちは地形の単位でくくってみる 14

2 行政には厳密に。住民には曖昧に 15

4節 活動組織

1 二重構造の組織で柔軟に運営する 16

2 「代表者会」は大きな方針を決定する、プロジェクト進行を厳かく見守る場 16

3 「作業部会」は何でも話せる、プロジェクトを企画・実践する場 18

4 随時、組織の改善を図る 19

5 人材確保には体験とロコミを重視する 20

5節 寺尾地区の成り立ちと暮らし

1 一見複雑な地区を読み解く 21

2 一連なりの「原」と背中合わせの「谷戸」 21

3 暮らしの手がかりとなる施設や空間を把握する 24

4 台地、坂、低地を上手に使いこなす暮らしのパターンを知る 26

5 まちづくりの課題から取り組みを具体化する 27

<メンバーこぼれ話 1：地図を縁にメンバーになった私> 28

第2章 てらお流プロジェクトの全て

1節 まちづくり素材を発掘するプロジェクト

No.001：私たちのまち探見隊養成講座 32

No.002：寺尾を支える人ヒアリング 36

No.003：リレーイベント&カレンダー 38

No.004：ガリバーマップ 40

No.005：まちの絵地図づくり（どんぐり地図） 42

No.006：ナイトウォーク 44

No.007：バリアフリーウォーク 46

No.008：防災まち歩き 48

<メンバーこぼれ話 2：遊び疲れるまで楽しむまち歩き> 50

2節 暮らしの意識や仕組みを生み出すプロジェクト

No.009：福祉の心を育てる体験（ハンディキャップ疑似体験） 52

No.010：ともに暮らすガイド 54

No.011：昔遊び&ニュースポーツ祭り 56

No.012：あんしんカード 58

No.013：てらおジュニアプログラム（夏休み探検指令） 60

No.014：ハマロードサポーター 64

No.015：わたしたちの「まちをきれいに」ポスター募集 66

No.016：障害者と行く小さな旅 70

<メンバーこぼれ話 3：本当に手に入れたもの> 72

3節 空間や施設を改善するプロジェクト

No.017：バス停留所の改修（バス待ち空間の創出） 74

No.018：身近な公園の改修 76

No.019：小さなす設置大作戦 80

No.020：バス通り歩道のバリアフリー改善 82

No.021：街角のゆとりづくり（出会いの道しるべ） 84

<メンバーこぼれ話 4：カギは窓にもあるのよ！> 88

4節 まちの情報を伝えるプロジェクト

No.022：てらお福まちキャラクター「Terao & Hibiki」 90

No.023：まち自慢大会 92

No.024：福まちフェスタ 96

No.025：広報紙「ひびきあい」 100

No.026：まち環境マップ 102

No.027：てらお「福」読本 104

No.028：活動紹介展とプロジェクトパネル 106

No.029：てらお情報局（情報掲示板） 108

No.030：メディア等での活動紹介・対外アピール 110

<メンバーこぼれ話 5：私を夢中にさせた人> 112

第3章 まちづくりの企画力と展開・戦略力を身につけるポイント

1節 事務局とコーディネーター

1 事務局は参謀本部となる 115

2 コーディネーターに必要な資質 116

3 コーディネーターは一人ではない 116

2節 まちづくり指針と協働行動計画

1 ハードとソフト両方を意識したまちづくり目標 118

2 臨機応変な対応をする協働行動計画 119

3節 プロジェクトの推進と展開

1 やらされ感厳禁 121

2 アイドリング期間は丹念に事を運ぶ 121

3 まちに既にある力を頼る 122

4 プロジェクトは小さく行う 123

5 縁を結ぶ 123

6 成果は使いまわす 124

7 リサイクル型まちづくり 124

4節 記録と評価

1 気持ちがホットなうちに反省会を開く 126

2 全ての記録を丹念に残す 126

<メンバーこぼれ話 6：作業部会の秘訣（種あかし）> 128

てらお福まち全体を見渡すための付属資料

1 「てらお福まち」の歩み 130

2 プロジェクト位置図 132

3 「てらお福まち協議会」規約 134

4 「てらお福まち」を創りあげてきた人や組織 136

あとがき 響てらおさんのこと 139

## 1 寺尾地区はよくある普通のまち

鶴見寺尾地区は、戦後比較的早くから小さな単位で開発された丘陵の住宅地です。そのためか、山坂の多い複雑な地形の上に狭い道路が通っています。鶴見駅まで歩くと30分はかかるためバス利用が多くなりますが、地区の幹線道路であるバス通りには十分な歩道もなく、バス停にたどり着くまで一苦勞です。

古くから住宅が建ち並んでいた一角では高齢化が進む一方、企業社宅だったところやこれまで開発の手が及んでいなかったまちのすき間のような斜面地で新たな住宅建設が行われ、若い世代も移り住んできています。その結果、子育て世代、子どもたち、障害者、高齢者など多様な人々が外出しやすい環境をつくることや生活を支える福祉サービスの充実などがまちづくり課題とされています。

このように、このまちの特徴と状況を書き連ねてみると、それは横浜市のあちこちの地区で見られることで、何ら特別なことはありません。鶴見寺尾地区は横浜にはよくある普通のまちです。

## 2 寺尾地域ケアプラザ所長の思い

こうした状況を目の当たりにしながら、平成13年度が始まる頃、寺尾地域ケアプラザ所長は、この施設を拠点にしてまちの課題解決に一步踏み出せないかと思いを巡らせていました。

そもそも地域ケアプラザとは、市民の誰もが地域で安心して生活できるよう、地域の福祉・保健活動を振興するとともに、福祉・保健サービスを身近な場所で総合的に提供する施設です。事業内容としては、○地域のボランティア等の活動・交流、○福祉に関する相談・助言・調整、○地域包括支援センター、○通所介護（デイサービス）、○居宅介護支援等を行っています。

寺尾地域ケアプラザがある場所にはかつて公設市場があり、生活に必要な食料や物の調達だけでなく、情報交換や問題解決の場ともなるなど、住民の暮らしを支える中心的場所でした。その大切な場所に建てられた施設であるからこそ、暮らしの拠点として更に活用いただくことを目指そうと考えたのです。

そうした折、横浜市では地域ケアプラザ毎に「地域支えあい連絡会」を立ち上げようとしていました。地域支えあい連絡会とは“地域ケアプラザを拠点と

## 私たちのまち探見隊養成講座

色々な視点や立場を意識しながらまちを歩き、まちの魅力や問題点を発見し、誰にでも優しい、暮らしやすいまちについて考える講座です。

「山坂が多い私たちのまち。そのマイナス面をステキな魅力に変える、そんな方法を一緒に学んでみませんか？」と誘うチラシを作成し、健康ウォークや歴史探訪にとどまらず、まちづくりへの興味を抱いていただくことをねらいとしています。

まちの環境に興味を持っている人はもちろんのこと、すでに自分はこのまちのことは十分にわかっていると思っている人、たとえば町内会など地縁組織役員の方々、行政や施設に勤めている人などにも声をかけ、参加いただくようにしています。そうすると、みんなが興味をもった特定の場所についての共有感が得られたり、何より、わかっているつもりだった場所も改めて意識して見ると、今まで気がつかなかったことが見えたりして効果的なのです。

まち探見隊には障害を持つ人がいつも数人参加しています。彼らがいると、まちを見る視点が広がり、そして厳密になります。

講座は例年、秋に開講し春先にかけて6回程度開催しています。原則、土曜日の9時半から12時半までの時間を使います。毎回歩くテーマやコースを変えて新たな興味が湧くようにしながら、時折、座学の時間や課題整理から提案に結びつける時間などを組み込んでいます。

図 001-1 問題だけでなく魅力も発見します



図 001-2 さまざまな視点を持つ人々が参加します

